

27	田原	田原市立東部中学校	シバタ トモアキ 名前 柴田 知 明
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (中学校)

研究題目

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともに

よりよい社会づくりへの参画をめざす生徒の育成

～2年社会「江戸から明治への転換期！日本の未来を考える！」の実践を通して～

1 主題設定の理由

現在世界は、コロナ禍の終息に向かう中、AI時代の訪れ、グローバル化の進展、さらには戦争の惨禍など、先行きが未だ不透明である。そんな「今」を生活している人々は、知恵を絞りながら豊かに生きるための方法を考えている。予測困難な未来が待ち構えている今だからこそ、今後の日本、世界の未来を担っていく中学生には、どんな状況でも最適解を見つけ、よりよい社会をつくる力が必要になってくる。

そこで、本研究では、歴史的分野の「江戸時代の開国から明治時代初期」を取り扱う。この単元では、江戸幕府が対外政策を転換して開国したことや、開国による日本の影響について、政治や経済などの複数の視点や、幕府、雄藩、庶民などの複数の立場から考えることを通して、社会的な見方や考え方を働かせて考察することができる。また、時代の転換期でもあり、社会全体の問題点を解決することを踏まえ、よりよい社会にしていくためにはどうすればよいのかを考えていく。このような活動を通して、自分なりによりよい選択・判断をし、課題解決に取り組む経験をすることで、よりよい社会づくりへの参画をするための資質を育てたいと考えた。そこで、次のようにめざす生徒像を設定した。

2 めざす生徒像

- ・社会的な見方や考え方を働かせることができる生徒
- ・よりよい社会づくりへの参画をめざすことができる生徒

本単元における「社会的な見方や考え方を働かせる」とは、「歴史的事象を、類似、差異、特色などに着目し、比較して考える」、「歴史的事象を背景、原因、結果、影響などに着目し、相互のつながりから考える」ことと捉える。また、「よりよい社会づくりへの参画をめざす」とは、「歴史的な事実が、よりよい社会の実現をめざした結果であると認識する」、「歴史から何を学び、よりよい社会にするためにはどのようなことが必要とされているかを考える」こととする。さらには、そのような意識や意欲を高めたり、行動化へのきっかけを作ったりすることが、「参画をめざす」と捉え、本研究を進めていく。

3 研究の方法

(1) 研究の仮説と具体的な手立て

めざす生徒像に迫るために、次の仮説と手立てを考えた。

仮説1 単元全体を通して、自分なりに意思決定する場と練り直す場を繰り返し設定したり、多面的・多角的に考察する場を意図的に工夫したりすれば、社会的な見方や考え方を働かせることができるであろう。

手立て1 毎時間、意思決定を伴う単元課題を練り直す

本単元では、「あなたは、日本のために、開国すべきだったと思いますか、鎖国を続けるべきだったと思いますか」という単元課題を設定する。この課題は二択なので、自分の考えをもちやすい。1時間ごとの学習内容を踏まえ、単元課題に対する自分の考えを繰り返し練っていく。毎時間の学習内容により、自分の考えが揺さぶられるため、学習するごとに社会的な見方や考え方を働かせていけるであろう。

手立て2 協働的な学びの場の工夫

自分の考えを練り直していく中で、仲間と関わりながら学習を進めていく。自分の考えと同じ考えや違う考えをもった仲間と話し合ったり、違う立場で考えている仲間と関わらせたりすることで、社会的な見方や考え方を働かせて、考えをさらに深めることができるであろう。

仮説2 追究活動の場において、歴史的事象の背景を考え、それに関わる人物の思いに迫ったり、過去の歴史の問題点を踏まえ、めざすべき社会を予想、比較、評価、提案する学習活動を行ったりすれば、よりよい社会づくりへの参画をめざすことができるであろう。

手立て3 歴史的事象に対する思いや願いに焦点をあてる

開国による日本の影響の中で、「幕府」の思いや願い、倒幕へ動く「雄藩」の思いや願い、そして、生活をするために必死な「庶民」の思いや願いに迫る学習を行っていく。「思いや願い」があるからこそ、「行動」に移した人物がいることを理解していけば、よりよい社会にするための意識や意欲が高まり、

行動化へのきっかけを作れるであろう。

手立て4 歴史の問題点の把握→予想→比較→評価→提案という学習活動の流れを作る

江戸幕府滅亡後の、明治政府の国づくりに着目して学習を行っていく。江戸幕府の問題点を把握した上で、その後の史実を学習する前に明治政府が行うべき政策を明治政府の立場で予想する。次に、評論家の立場でその予想と史実を比較し、歴史的な事象を評価する。そして、評価した上で、よりよい社会にするためにはどのような政策が必要かをもう一度提案する。このように、明治政府の立場で歴史的な事象を予想し、評論家の立場で客観的に明治政府の政策を評価すれば、その政策がよりよい社会の実現をめざした結果だと認識し、さらには、よりよい社会づくりのためには、どのようなことが必要とされているかを考えることができるであろう。

(2) 検証の方法

生徒Aを抽出生徒として選定し、変容を追うことで、手立ての有効性を検証する。

【生徒Aについて】

生徒Aはどの学習もまじめに取り組むことができる。社会科の学習においては、教師の話をメモを取りながら聴き、自分の考えをもつこともできる。しかし、一つの視点から捉えて考えを構築する傾向にあり、生活班で話し合っても自分の考えに固執して課題解決してしまふ。また、社会科のアンケートでは、「歴史学習を通して、現在の生活に生かすことができますか」との問いに対して、「あまり思わない」と答えた。その理由としては、「現在の生活には生かせないと思います。理由は、ふだんの生活であり歴史のことを考えたことがない」とあり、歴史的な事実が、よりよい社会の実現をめざした結果であるという認識不足が大いに見られる。

【生徒Aにかける教師の願い】

本単元を通して、一つの視点だけでなく、様々な視点から自分の考えを深めていってほしい。また、歴史学習を通して、その歴史的な事象を知るだけでなく、それがよりよい社会の実現をめざした結果であると認識し、よりよい社会にするためにはどうすればよいかを考えられるようになってほしい。

4 研究の実際と考察

(1) どうする江戸幕府!? 日本は開国すべき? 鎖国を続けるべき? (手立て1)

本単元では、開国による政治的影響、経済的影響について学習していくことから、「あなたは、日本のために、開国すべきだと思いますか? 鎖国を続けるべきだと思いますか?」という意思決定を伴う単元の課題を設定した。まず、ペリーが来航し、日本の開国を求めてきたときの生徒Aの単元課題に対する考えが【資料1】である。【資料1】の太線部のように、前単元の学習をもとに考えていることがわかる。一方で、単元課題の「日本のために」が生徒Aにとっては、「江戸幕府が長く続いたため」と捉えていることが伺える。そこで、次時では、日本が開国し、アメリカと不平等条約を結んだこと、結んだことによる不平等の内容を踏まえ、単元課題に対して考える時間を設けた。そのときの生徒Aの考えが【資料2】である。生徒Aは、鎖国を続けるべきだった理由を、「アメリカの犯罪をアメリカの法律で裁いたり、関税自主権がないと貿易でも不利になって」とあり、考えの根拠が、前時の「江戸幕府が長く続いたのが鎖国」から、学習した歴史的な事象の内容を踏まえての理由になっていることがわかる。また、「日本が完全不利」や「今後アメリカに支配されるかもしれないから」という記述から、単元課題の「日本のために」どちらがよかったのかを考えていることが伺える。次に、開国したことによる国内の政治的影響や経済的影響を学習した。その際の生徒Aの考えが【資料3】である。生徒Aは、3、4行目のように記述しており、今まで江戸幕府側の立場で考えてきた生徒Aが、初めて国内の庶民に目を向けて考える姿が捉えられる。また、前時の政治的な影響だけでなく、経済的な影響からも自分の考えを記述していることがわかる。さらに、「やっぱり」は、1時間ごとに学習したことを踏まえ、同じ単元課題に対する自分の考えを様々な視点から、自分の考えに根拠をもつことができた自信の表れだと考えられる。【資料1】、【資料2】、【資料3】から、開国による背景、原因、結果、影響など複数の視点が毎時間加わっていく単元構成のため、生徒Aの考えである「鎖国を続けるべきだった」の根拠が、社会的な見方や考え方を働かせながら徐々に深まっていっていることがわかる。(手立て1)しかし、【資料3】の「幕府は政治的にも経済的にも厳しくなると思います」の主語が「幕府」になっており、生徒Aの中では、この単元課題は幕府の立場で考えていることが伺える。

学習内容	持ったこと	単元の課題(質問) ～あなたは、日本のために、鎖国を続けるべきだと思いますか?～
ペリーの来航	<ul style="list-style-type: none"> 4巻の課題を聞いて実際に読んでみた。 開国を求めている国を勉強して見たい。 アメリカの歴史や文化、生活などを勉強するよりに決めた。 開国は、後の生活に生かせるために、内容を勉強にも使いた。 	私は、開国をすべきだと思います。江戸幕府が長く続いたのが鎖国だし、ペリーの来航に対して日本のメ리트がないから、日本のメ리트があるはいいけど、アメリカのメ리트だけあるの、開国せずに鎖国を続けた方がいいと思います。

【資料1】単元課題に対する生徒Aの考え(タブレット内ワークシートより)

開国と不平等条約	<ul style="list-style-type: none"> 1854年に日米和親条約を結んだ。 下田の開港の2港を開いた。 1858年に日米修好通商条約を結んだ。開港場を、横浜、神奈川、長崎、神戸の4港を開いた。 開国は、後の生活に生かせるために、内容を勉強にも使いた。 アメリカは、軍事力も強くて、日本に開港場を指定して、不平等条約。 	私は、開国を続けるべきだったと思います。開国したことによって不平等な条約を結ばされたし、領事裁判権の侵害や関税自主権の放棄を認めてしまう、日本が完全不利になってしまいます。アメリカの犯罪をアメリカの法律で裁いたり、関税自主権がないと貿易でも不利になって、今後アメリカに支配されるかもしれないから、鎖国を続けるべきだったと思います。
----------	--	---

【資料2】単元課題に対する生徒Aの考え(タブレット内ワークシートより)

開国後の国内の政治的影響	<ul style="list-style-type: none"> 幕府が鎖国で続けたことで、国内に対する批判は、鎖国を続けるべきだと思います。開国したことで、国内に対する批判が激しかった。 国内での領土争いが続いた。 開国のおかげにより、国内に対する批判が少なくなった。その後、中絶が廃止された。幕府の権力は下がった。 幕府が弱くなったことにより、幕府が弱くなった。 幕府が弱くなったことにより、幕府が弱くなった。 幕府が弱くなったことにより、幕府が弱くなった。 幕府が弱くなったことにより、幕府が弱くなった。 	幕府は政治的にも経済的にも厳しくなると思います。だからやっぱり開国を続けるべきだと思います。
--------------	--	--

【資料3】単元課題に対する生徒Aの考え(タブレット内ワークシートより)

の存在を踏まえた上での「批判してくる人が増えるな」という考えに至ったと考えられる。この開国による尊王攘夷派や幕府の思いや願いに迫った学習後の生徒Aの振り返りが【資料8】である。生徒Aは、太線部のように、尊王攘夷派の幕府に対する不満を感じ取ることができたといえる。次に、安政の大獄（幕府が尊王攘夷派を処罰）を起こしたときの武士の思いや願いについて考えさせた【資料9】。前時で幕府に対しての不満が出てきたと感じた生徒Aは、武士の思いを、赤枠のように記述している。これは、幕府に対する武士の不満を生徒Aが感じ取り、その思いから「かたきをうってやる！」という幕府に対しての具体的な行動へと考えが繋がったと思われる。また、桜田門外の変（大老の井伊直弼が暗殺される）が起きたときの武士の思いを考えたのが【資料10】である。生徒Aは、赤枠のように記述しており、安政の大獄時の武士の気持ちを踏まえて考えていることがわかる。さらに、「今の幕府は信用できないからもう幕府を倒しちゃおう！」とも書いており、生徒Aの中でも、幕府に対しての不満から「幕府を倒す」という考えに至っていることがわかる。これらの学習を終えての振り返りが【資料11】である。生徒Aは太線部のように記述している。「幕府を倒すために動いていくのかな」から、具体的な動きは読み取れないが、「幕府を倒すために」と目的のために動いていく武士の姿を捉えていることが伺える。そして、尊王攘夷から倒幕に考えが変わった薩摩藩と長州藩に対し、坂本龍馬がその仲を仲介することで幕府と対決する姿勢を一層強めることになった薩長同盟について学習した。はじめに、より切実感をもたせるために、教師出演の動画を見せた【資料12】。その上で、どんな思いで坂本龍馬は仲介したのかを考えさせた【資料13】。生徒Aは赤枠のように書いた。この「お願いします」から、坂本龍馬の立場に立って、切実に江戸時代を終わらせたいという思いが読み取れる。この学習後の振り返りが【資料14】である。生徒Aは、太線部のように記述している。この「わざわざ」「相当な思いがあつて」から、思いに迫る学習を行ったことで、思いがあるから行動したことを実感していることがわかる。最後に、思いに迫る学習を行ってきた中で学んだことと、そこから今後の生活に生かせそうなことを書かせた【資料15】。生徒Aは太線部のように記述した。この記述から、不満が歴史的事象（行動）につながったことを感じており、行動することの大切さを生徒Aが学んだことがわかる。（手立て3）一方で、その行動がよりよい社会の実現をめざした結果であると生徒Aが認識するまでには至っていないことも読み取れる。

今日の授業で、私は尊王攘夷派と幕府の気持ちを考えました。
尊王攘夷派では、青のマイナス面の付せんがたくさん貼られていて、幕府に対して、不満がたくさんあるんだと思いました。
幕府としても、開国したときはプラス面も、マイナス面の方が多かったらうなと思いました。

【資料8】 開国の授業後の生徒Aの振り返り

②安政の大獄のときの武士の気持ち

納得い かない！	このほかの いざいざ 怒り！	どうして幕 府するの？	もう幕府の ついていけ ない！
幕府を 許せな い！	<u>やらせぬ 士のかたき をうってや る！</u>	幕府を倒さ すしかない ！	これは やばい だろ！
もう幕府は 無理ですね い！			

【資料9】 生徒Aのグループの思いや願い

③桜田門外の変が起きたときの武士の気持ち

これで幕府 がもっと強 くなるぞ！	勝手に結成 するのい けなない ぞ！	江戸幕府を 倒すのめ ざりやあ ら！	外は幕府が 強くなるぞ ぞ！
平素が喧嘩 した薩長だ よ	幕府の思い やりになる もんか	この期いで 幕府を倒せ るという ぞ！	

【資料10】 生徒Aのグループの思いや願い



【資料12】 教師出演の動画

今日の授業では安政の大獄と桜田門外の変について勉強は
 した。安政の大獄のときの武士の気持ちは、全部青の付せんが
 幕府に対して不満だったことがわかりました。その桜田門
 外の変を勉強したら本当に大老の井伊直弼の時勢がひどく
 くなりました。でも、それだけ幕府の方がよくなると、
かたきをうってやるから幕府を倒すために動いていくのがな
 んだと思いました。

【資料11】 安政の大獄と桜田門外の変の授業後の
 生徒Aの振り返り

④薩長同盟のときの坂本龍馬の気持ち

幕府を倒すた めに薩摩藩と 長州藩の結成が 必要だ！	今幕府の権 威はガタ落ち ちだ！	いよいよ日 本の夜明け じゃ！	江戸時代を 終わらせる ときが来た ぞ！
<u>お願いします！</u> 一緒に江戸幕 府を倒さよう ぞ！	今を逃せば、江戸幕 府を倒せな くなる！	この通り だ！（土下 座）	新しい時代 が待っている ぞ！

【資料13】 生徒Aのグループの思いや願い

今日の授業で思ったことは、江戸時代の坂本龍馬がわが
 わが仲の悪い薩摩藩と長州藩の仲をよくして門閥を繋
 ぎて行動したのは、相当な思いがあつて、幕府を倒した
んだと思いました。

【資料14】 薩長同盟のあとの授業後の生徒Aの振り返り

私は最初は徳川を倒さなければならぬと思ったけれど
 今は開国してよかったんかと思いましたが、開国してか
 ら幕府に対する不満が高まってきて、その不満が桜田門
 外の変や薩長同盟につながったのかなと思いました。今後の
 生活に活かせることは、行動することの大切さを
 学ばれました。

【資料15】 授業後の生徒Aの振り返り

（4） どうする明治政府！？日本の未来を考える！（手立て4）
 思いに迫る学習を通して、行動することの大切さを知った生徒A。歴史的事象がよりよい社会の実現をめざした結果であると認識させるために、江戸時代から明治時代への時代の転換期を取り上げ、江戸幕府滅亡後の、明治政府の国づくりに着目して学習を行った。よりよい日本にするために明治政府が行う政策について考察すれば、明治政府が出した政策が、よりよい社会の実現をめざした結果だと認識できるであろうと考えた。まずは、江戸幕府が滅亡した理由について考えさせた。時代の転換の起因となる

私が一番問題だと思うのは、やはり不平等条約を結んだことかな
 と思います。不平等条約を結んでいり、立場的には日本は
 不利だし、これから外国と貿易をしても開港場は少ないと不利
 だし、戦争に負けたら清やインドなどに植民地になって
るから条約を平等にすることが必要だと思います。

【資料16】 生徒Aが考える江戸幕府の問題点

のは、「過去の問題点」である。それを乗り越えて解決することで、よりよい社会を実現してきた。そこで、まずは江戸幕府の問題点を振り返ることにした【資料16】。生徒Aは、太線部のように記述しており、生徒Aの中では、不平等条約を結んだことが江戸幕府の問題点と考えていることがわかる。さらに、そう考えた理由としては、「関税自主権がないと不利」「もし戦争になって負けたら清やインドみたいに植民地にされるから」とあり、生徒Aにとって貿易が不利になることや植民地になってしまうことが理由として挙げられている。この時点での生徒Aの考えのもと、「あなたが、もし明治政府の役人であったならば、どのような順番で政策をしていくべきか？」と歴史的な事象を学習する前に、明治政府の立場で予想する活動を行った。予想した生徒Aのワークシートが【資料17】である。生徒Aは、最優先にすべきことを「経済力を上げる」とし、「国を豊かにすれば」と記述している。さらに、優先2を「教育を受けさせる」、優先3を「軍事力を上げる」としている。その理由としては、それぞれ太線部のように記述しており、江戸幕府の問題点から考えているものであると思われる。また、優先3の理由の中に、「戦争をしても対抗できると思うから」とあり、欧米諸国によりアジアが侵略されていることを受けて、日本が二の舞にならないようにと考えたことからこのような記述になったと考えられる。次に、実際の歴史的な事象（廃藩置県、岩倉使節団、解放令、学制、徴兵令などの様々な政策）と出会い、その事象と自分の予想を比較することで自分なりに歴史的な事象を評価する活動を行った【資料18】。評価する際には、客観的に歴史的な事象を捉えられるように、評論家の立場で評価させた。まず、生徒Aは最大の評価ポイントを、「この数十年しかない中で、たくさんの改革を行ったこと」とした。これは、明治政府の政策を評価することで、評論家のように客観的に捉えたからこの記述だと思われる。また、「この時代に（中略）今の日本があるのだと思いました」とあり、評論家として評価したことで、明治政府の政策があったからこその今の日本があるのだと感じている生徒Aの姿がこの記述から読み取れる。つまり、生徒Aが、歴史的な事象がよりよい社会の実現をめざした結果であると認識しているといえる。「今の日本がある」という記述に関しては、植民地にされなかった事実から、日本が現時点で外国に支配されずに済んでいるところからきているものだと考えられる。これらの記述は、明治政府の立場で政策を予想した上で、実際に歴史的な事象と出会い、その事象を評論家として客観的に評価したことで書かれたものだと考える。つまり、明治政府と評論家という2つの立場で考え、明治政府のめざすべき姿と、その姿にどのくらい達しているか、両面で考えることで、具体的に「よりよくなっている」という事実を生徒Aが認識できているからのものといえる。さらにそこから、再度評論家として、どうすれば評価が上がるのかを、明治政府に提案するという形で考えさせた。そのときの生徒Aのワークシートが【資料19】である。生徒Aは、「実際に（中略）とても評価できます」と、明治政府の政策を評価している一方で、「国民の意見を聞いて、（中略）そうすればもっといい国になる」と記述している。「そうすればもっといい国になる」から、よりよい国になるためにどのような政策が必要かを考えている生徒Aの姿が読み取れる。最後に、単元前に行ったアンケートと同じアンケート（歴史学習を通して、現在の生活に生かせることができますか？）をとった。その結果が【資料20】である。まず、アンケートの問いに対して、単元前は「あまり思わない」であったが、「思う」に変わっていることがわかる。また、その理由として、「欧米諸国に追いつくために（中略）本当に感じました」からは、歴史的な事実が、よりよい社会の実現をめざした結果であると認識することができている生徒Aの姿が読み取れる。さらに、「問題点を見つけて改善していく明治政府の様子は、日々の生活にも生かせると思いました」とあり、歴史から学べることを生徒Aは実感しているといえる。そして、「もっといい生活にしたいと思うのは誰もがそう思うし、そのためにみんなで考えることが大事だと思うようになりました」とも記述している。この記述から、生徒Aが、自分たちに生かせることや、さらにはよりよい社会（生活）をつくるために必要なことは何かと考えている様子が伺える。つまり、生徒Aは、よりよい社会づくりへの参画をめざそうとしているといえる。（手立て4）

生徒A(経済力を上げる) (2)

理由
 国が富むためには何をすべきかという点、国を豊かにするには、次の政策がまず必要だと思うからです。

↓

優先1 教育を受けさせる

理由
 外国と同じような教育を受けさせることで取り入れるといふと、国が豊かになると思うからです。国が豊かになると、外国との競争も有利になるからです。

↓

優先2 軍事力を上げる

理由
 強い国を築くためには外国と同じようなレベルのものを造るには、軍事力が必要だと思っております。そのためには、今の日本よりも、もっと軍事力を上げていくべきです。

【資料17】生徒Aが予想する明治政府の政策

明治政府が行った政策を、
 「とてもいい」「まあまあいい」「あまりよくない」「よくない」と客観的に評価する。

その理由を、
 明治政府は、廃藩置県や学制、徴兵令、地租改正などの様々な改革を行った。その中で、特に評価したいのは、この数十年しかない中で、たくさんの改革を行ったことです。これは、明治政府の政策を評価することで、評論家のように客観的に捉えたからこの記述だと思っております。また、「この時代に（中略）今の日本があるのだと思いました」とあり、評論家として評価したことで、明治政府の政策があったからこその今の日本があるのだと感じている生徒Aの姿がこの記述から読み取れる。

【資料18】生徒Aによる明治政府の評価

提案(国民の意見を取り入れる) (2)

理由
 明治政府が、まず政策は、欧米諸国に追いつくための政策が多かった。その中で、国民の意見を聞いて、(中略) そうすればもっといい国になるという提案は、とてもいい国になると思います。また、国が豊かになるためには、国を豊かにするには、次の政策がまず必要という提案は、とてもいい国になると思います。

【資料19】生徒Aが考える明治政府への提案

アンケート - 思い思う - あまり思わない - 思わない

今まで明治時代の政策を学習して、それを評価して、どうすればいいか提案して思ったのは、実際に、明治政府の政策を評価することで、評論家のように客観的に捉えたからこの記述だと思っております。また、「この時代に（中略）今の日本があるのだと思いました」とあり、評論家として評価したことで、明治政府の政策があったからこその今の日本があるのだと感じている生徒Aの姿がこの記述から読み取れる。

【資料20】生徒Aの社会科アンケート①

5 研究の成果と課題

(1) 成果

<仮説1について>

生徒Aは、単元開始時、自分の考えをもつことができる反面、自分の考えを一つの視点から捉えて学習課題を解決する傾向にあった。そのような生徒Aに対し、「あなたは、日本のために、開国すべきだったと思いますか、鎖国を続けるべきだったと思いますか」という単元課題を設定した。毎時間、その時間で学習した内容を踏まえて、単元課題に対する自分の考えを様々な要因から練り直していくことができ、社会的な見方や考え方を働かせることができた。毎回同じ単元課題に対して考えていったからこそ、歴史的事象を比較しやすかったり、前時や次時とのつながりを捉えやすかったりしたことが生徒Aの見方や考え方を働かせたことにつながったと考える。

また、生徒Aが自分の考えを練り直していく過程の中で、意図的なグループを作り、生徒Aの思考を刺激したことは、社会的な見方や考え方を働かせるのに十分であった。特に、「鎖国を続けるべきだった」という自分の考えを深めていく中で、「開国すべきだった」という自分とは違う考えに出会い、その考えと自分の考えを比較して新たな考えを生徒Aは見出すことができた。さらに、「鎖国を続けるべきだった」と、その歴史的事象の中で考えを深めていった生徒Aであったが、意図的なグループ編成をしたことで、その事象の先（未来）にまで考えが及ぶようになっていった。このことから、講じた手立てが有効だったと判断でき、仮説1を立証することができた。

<仮説2について>

生徒Aは、単元開始時、アンケート（歴史学習を通して、現在の生活に生かせることができますか？）に対し、「現在の生活には生かせないと思います。理由は、ふだんの生活であり歴史のことを考えたことがない」と書いていた。そのような生徒Aに対し、歴史的な人物の思いに迫る学習を行ってきた。ただ歴史的な事象を学習するのではなく、思いに迫ることで、歴史的な人物も「〇〇したい」とめざすべきものがあり、そこに向けて行動していることを生徒Aは理解することができ、行動することの大切さを実感できたと考える。

また、江戸幕府滅亡後の、明治政府の国づくりに着目して学習したことは、「よりよい社会づくりへの参画をめざす」うえでとても有効であった。江戸時代の幕末期に、思いに迫る学習を行ってきたからこそ、明治政府の立場で政策を予想することができたと考える。そして、予想したからこそ、明治政府のめざすべき姿が自分なりに把握でき、実際の歴史的な事象と比較し、評論家の立場で評価することができた。これらの活動により、実際の歴史的な事象が、よりよい社会の実現をめざした結果であると生徒Aは認識することができた。よって、講じた手立てが有効だったと判断でき、仮説2を立証することができた。

(2) 課題

手立て4では、今回は江戸時代の幕末期から明治時代初期という、思いに迫りやすい時期を取り扱ったが、どの時代でも歴史的な事実が、よりよい社会の実現をめざした結果であると認識できることが必要である。しかしながら、歴史学習を通して、歴史から学べることを実感し、歴史学習からよりよい社会づくりへの参画をめざす資質を育てられることが研究を通してよくわかった。

6 おわりに

単元後に、再度、単元開始前に行ったアンケートを取った【資料21】。アンケートの問いに対して、単元前は「あまり思わない」と答えていた生徒Aであったが、単元後では「少し思う」に変わっていた。理由としては、「どんな時代でも問題はあり、その問題をよくするためにみんなで考えることが大切」としている。また、「そもそも日本が抱える社会問題は何かになって考えることは、自分にもできることだと思ひ、そうやって考えてよくするってことが今の生活にも生きてくると思うようになりました」と記述している。「どんな時代でも問題はあり」と受け入れた生徒Aは、「日本が抱える社会問題は何かになって考えること」が今の生活にも生きてくると思うようになっていることがわかる。予測困難な未来が待ち構えているからこそ、もしかしたら、問題を解決するための方法に正解はないのかもしれない。生徒Aの記述のように、未来がよりよくなるために、「今」について考えることがよりよい未来につながっていくと信じ、今後も生徒とともに社会科としての学びを追究していきたいと強く感じた。

◎日本が抱える社会問題について、自分でできることがあると思いますか？
思う・少し思う・あまり思わない・思わない

理由
今は具体的には言えないけど、できることはあるんじゃないかと思うようになりました。江戸と明治を勉強して思ったのは、どんな時代でも問題はあり、その問題をよくするためにみんなで考えることが大切だと思いました。で、考えたら行動してみることも大事だと思ひます。自分はなかなか行動にうつせないけど、ちゃんとしたことでも行動できるし、かなと思いました。あと、そもそも日本が抱える社会問題は何かになって考えることは、自分にもできることだと思ひ、そうやって考えてよくする、てことが今の生活にも生きてくると思うようになりました。(具体的に言わなくてもいい)

【資料21】生徒Aの社会科アンケート②